

辺に3万平方キロの土地取得

日韓トンネルフオーラム

夢実現を厚く語る大江理事長

日本と韓国を海底ト
ネルでつなぐプラン
を語る「日韓トンネル
フオーラム」（日
韓トンネル推進長崎県
大会議など主催）が9
月25日、壱岐文化ホール
で開催され、市議5
人など約40人が出席し

計画を進めていたる國
際ハイウェイ財團の大
益夫理事長（65）は
「日韓トンネルの理念
事業」と題した講演
へプロジェクトの進
状況の詳細を説明し

計画は佐賀県の東松
浦半島（唐津）から壱
岐・対馬を経て、韓国
の巨濟島、そして釜山
に至る全長約230
キロ。対馬から巨濟島ま
では最短経路で約55
キロ、海流が比較的穏や
かな西水道を経由する
と約65キロ。

1988年
に開通した世界最長海
底トンネル
の青函トン
ネルの53キ
ロ、94年に
完成した英
仏海峡トン
ネルの49キ
ロよりも長
い、世界最
長の海底ト
ンネルとな
る。青函ト



ンネル建設時のスタッフを揃えており、「技術的には不可能ではない」と強調した。唐津―壱岐間は約20キロ、壱岐―対馬間は約50キロとなっている。

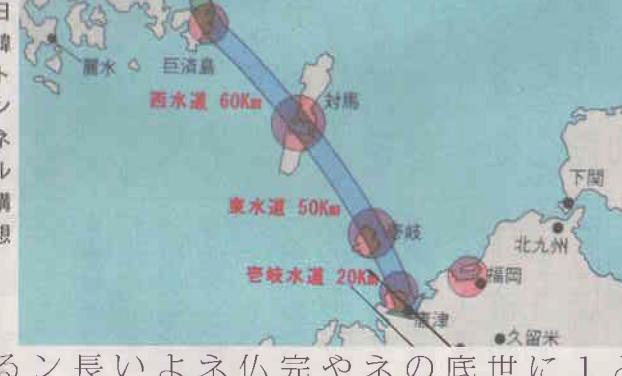
同財団はすでに唐津市に20万平方メートルの斜坑（本坑を採掘するため必要な作業坑）基地を確保し、計画の半分の約600坑を採掘している。また対馬の西海岸にある阿連（あれ）に40万平方メートルの土地を取得し、9月11日には坑口オープン式を実施した。

壱岐でも吉辺町諸吉

本村触の馬ノ瀬地区に
3万平方メートルの斜坑候補地を取得済み。勝本町には資材置場の土地も確保した。計画では、トンネルを壱岐中央部に通すことは地下水、温泉への影響が予想されると、地下駅を設置する予定となつていて。財団はこれまでの工事に約120億円を費やしているが、今後の工事は総工費6~9兆円、工期15~17年といふ日韓の国家的プロジェクトとなるため、各県に「日韓トンネル推

進県民会議」を設置して、気運の盛り上げに取り組んでいる。「民間ではとてもできない規模なので、国が動き出した時にすぐに調査を始められる準備をしていくことが、私たちの役目です」と大江理事長は語った。

また日韓トンネル推進長崎県民会議の川口勝之議長（80）は講演「壱岐の地域振興と日韓トンネル」で、「日韓トンネルは送電線の設置という大きな意味も持つている。日本の電気料金は1キロワット時25円と世界一高いが、送電線でモンゴルからの風力発電の電気を購入すれば1キロワット時2~3円と大幅に安くなる。ソフトバンクの孫正義社長も同じ考え方で計画を進めている」と電力面でのメリットを語った。



日韓トンネル構想

計画は佐賀県の東松浦半島（唐津）から壱岐・対馬を経て、韓国の巨濟島、そして釜山に至る全長約230キロ。対馬から巨濟島までは最短経路で約55キロ、海流が比較的穏やかな西水道を経由する



壱岐島内の計画図

電力供給面を指摘する川口さん